

2013 年度（対象年度：2012）自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 4	教育内容・方法・成果
44	成果

・自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
441	「学生に保証する基本的な資質」に沿った成果が上がっていますか。	学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。【どのように】	B	B
		成績分布、試験放棄(登録と受験の差)、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。	B	
442	学位授与(卒業認定)は適切に行われていますか。	学位授与の方針に従って学位授与を行っていますか。	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

<p>対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。</p> <p>・GPA(成績加重平均値)や平均点(成績平均値)により学習成果を測り、成績表に表記することによって、学生に主体的な学習成果の振り返りに用いている。また学部別に修得単位数の基準を設け、修得単位数に達しない者に対する指導等のための指標として活用している。また学生の履修辞退の状況を前・後期確認し、履修辞退制度の早期化による辞退者増減の経緯を教務会議に報告し確認している。</p> <p>学習効果に対する調査については、個々の授業内容に対する学生の理解度などを検証する「授業アンケート」を毎年2回(前・後期各1回)実施し、その結果を各学部及び個々の科目担当者にフィードバックすることで、カリキュラムや授業内容の問題点を探り、学習効果を高める方策の検討がなされている。また、フィードバックの迅速化を図るため、学期途中の授業アンケートも任意で実施している。</p> <p>また、「学位授与の方針」(学生に保証する基本的な資質)に沿って学習成果を測定する仕組みの構築について検討し、これら仕組みの構築に向けた各学部等における取組を補完する一方策として「学位授与の方針」達成度調査を実施した。なお、2012年度については、文学部・経済学部・理工学部・国際文化学部・短期大学部において実施した。</p> <p>ただし、「学位授与の方針」にある「学生に保証する基本的な資質」の各領域が、学修の成果として明らかとなるようシラバスの改善が課題である。</p> <p>・教務会議の審議により、5学部(昨年度は、2学部)が共通して実施した。本調査結果を踏まえ、学部において学修成果の検証が進められつつある。その他の学部についても主体的に実施されている状況である。</p> <p>また、教育目標に沿った成果が上がっているかを評価するために「卒業生および就職先の企業に対する調査」の一環として、卒業生アンケートを実施した。</p> <p>学位授与の手続きについては、学位規程をはじめ関連規程に基づき、各学部教授会及び研究科委員会において厳正に行われている。</p> <p>[改善すべき点の確認]前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点(【改善勧告】【努力課題】【留意点】)」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。</p> <p>・「学位授与の方針」達成度調査について、2011年度は理工学部と国際文化学部のみで実施したことから、全学</p>
--

共通の枠組みとして検証がなされていない。

- ・各授業科目と「学生に保証する基本的な資質」との関連について明示されていない。
- ・「学位授与の方針」達成度調査について、2011年度は理工学部と国際文化学部で実施したが、今後、全学共通の枠組みで実施することにより、各学部が主体的に実施する「学位授与の方針」に関する検証結果等と関連させることによって、さらに検証を深める。
- ・シラバスなどを通じて、科目ベースで学生に対する科目履修の目的や当該科目を履修することによって培われる「学生に保証する基本的な資質」を明示できるよう検討し、それらを全学教学会議および教務会議等で確認する。また、大学教育開発センターにおける2011年度指定研究プロジェクトで検討されている「WEBシラバス・WEB履修登録・授業アンケート機能を包含した「学修記録（仮称）の構築」に関する研究成果に基づき、学修の基盤となるシラバス改善の方策を検討し、それらを大学教育開発センター会議等で確認する。

### 3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

- ・2012年度の「学位授与の方針」達成度調査に取り組む学部が、2011年度から3学部増加し5学部（文学部・経済学部・理工学部・国際文化学部・短期大学部）となった。独自に調査を実施している学部に対しては、教務会議を通じて調査結果を共有することで、全学的に取り組む有意性を訴求する。

### 4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・Webシラバスに「到達目標」として、科目ベースで学生に対して当該科目を履修することによって培われる能力や資質を明示しているが、今後、学生が「学生に保証する基本的な資質」との関わりについて理解できるような記載方法を検討する。

### 5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
441	学生による学期末の授業アンケート報告書【2012年度版】
441	2012年度履修辞退受付状況一覧表
442	履修要項
442	大学HP ( <a href="http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html">http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html</a> )
442	学位規程

### 評価結果

#### 総評

学生の学習成果の測定を補完するため、「学位授与の方針」達成度調査を実施している点は評価できる。ただし、学生へのフィードバックという点においては、「改善すべき点とその改善方策」に記載されている点も含め、授業アンケートの改善や組織的な活用について継続して検討を進める必要がある。

また、学生の履修辞退の状況を前・後期確認し、履修辞退制度の早期化による辞退者増減の経緯を教務会議に報告し確認している点は評価できるが、分析状況など具体的に示していただきたい。

学位授与の手続きについては、学位規程をはじめ関連規程に基づき、各学部教授会及び研究科委員会において適切に行われていると評価できる。

#### 伸長すべき点(長所) 《箇条書き》

- ・「学位授与の方針」達成度調査の実施。今後、毎年度検証を継続していただきたい。

改善すべき点 (箇条書き) \* 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

・学生へのフィードバックという点においては、「改善すべき点とその改善方策」に記載されている点も含め、授業アンケートの改善や組織的な活用について継続して検討を進める必要がある。【留意点】

【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要